

月刊

平成29年8月1日発行(毎月1回・1日発行)第365号

シルバー人材センター

高齢社会を生きる



2017
8

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会編

効果的な講習で 就業会員を確保

就業機会を逃さない工夫

植木剪定の需要があっても対応できる会員の数が足りない…。みすみす就業機会を逃してしまいうる残念なセンターがある一方、技能講習を効率よく行い、就業機会を逸することなく就業に結び付けているセンターがある。技能を継承することにより、後継者の育成も図ることが可能だ。剪定等、技能系に限定せず、パソコン業務などの事務系職種への講習・研修の実施状況、また、誠実な対応とマナー、サービスの効果を上げている事例、および福祉・家事援助講習会を開催する例などを紹介する。

取り上げたのは、上越市SC、丹波市SC、鳥取市SCの三センター。



平成28年度に実施した、上越市SCの移動入会説明会

センターの概況
上越市SCは、北陸新幹線上越妙高駅からえちごトキめき鉄道で二駅目の高田駅が最寄り。高田城跡に造られた高田公園近くに本所がある。高田は、積雪でも歩行できる雁木がんどという屋根付きの通路があらちちらで見られることから、「日本一の雁木の町」といわれている。近年は雪が少なくなっているものの、樹木を雪から守る冬囲いは今も大事な冬支度として続いていて、同センターの受けている仕事の中でもとりわけ地

公益社団法人上越市シルバー人材センター（新潟県）

1 学ぶことで活躍の場を広げ 地域のニーズに応えていく

樹木を雪から守る冬囲い作業と剪定の受注が毎年数多くあり、就業会員の育成が常に課題となっている。限られた予算で講習を実施しているが、十分な育成ができず後継会員不足が続いていた。しかし平成二十七年に始まった国の補助事業の高齢者活用・現役世代雇用サポート事業の活用により、冬囲いと剪定の本格的な講習が実現でき、受講会員のうち三十人が派遣就業会員になるなど、大きな成果を得た。

上越市SCの概要

日本海を望む新潟県南西部に位置する、同県第3規模の都市。人口約19万7000人。昭和46年に直江津市と高田市が合併後、平成17年に14市町村が合併して現在に至る。

上越市SCは昭和56年11月に法人として設立。平成28年度に35周年を迎えた。独自事業で刃物研ぎ、古着等を再利用した小物作り・販売、野菜の生産・販売を行う。

最近6年間における事業運営状況

(平成23年度～平成28年度)

年度	会員数			租入 会率 %	就業実人員 (延人員) 人 (人日)	就業 率 %	受注 件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男	女	計						
平23	1,073	364	1,437	2.0	1,247 (131,640)	86.8	8,916	552,864	27.1/72.9
24	920	327	1,247	1.7	1,196 (127,149)	95.9	9,194	519,491	26.4/73.6
25	834	305	1,139	1.6	1,075 (107,846)	94.4	8,670	456,947	27.4/72.6
26	791	281	1,072	1.5	1,042 (104,927)	97.2	8,365	468,438	28.1/71.9
27	800	280	1,080	1.5	997 (102,775)	92.3	8,234	465,830	27.5/72.5
28	783	270	1,053	1.4	971 (103,736)	92.2	8,342	473,086	26.2/73.8

※25年度以降の受注件数、就業延人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値

域ニーズの高いものとなっている。こうしたニーズに応えるため、毎年会員拡大に努めて、設立三十五周年を迎えた平成二十八年度は特にセンターの周知・PRに力を入れ、新たな会員と就業機会の獲得に向けて力を注いだ。会員数は前年度より二十七人減少した。

一方、就業機会の獲得では、派遣

最近の入会状況

会員数の減少は、継続雇用や定年

事業(二十五年度に開始)が請負事業からの切り替えのほかに、民間事業所からの受注が前年度に比べて増加。この伸びにより、派遣事業を含む二十八年度の契約金額は、前年度を上回る結果となった。

延長などにより企業等に長く勤める人が増えていることが影響していると考えられ、このことは入会時の年齢にも見てとれる。ここ数年、六十代前半層の入会者はほとんどおらず、六十五歳以上が大半である。

会員の年齢別構成の割合(二十八年度)を見ると、六十～六十四歳は

四・二%と低く、六十五～六十九歳は三三・二%、七十～七十四歳は三

四・七%、七十五歳以上は二七・九%。

平均年齢は毎年上昇し、二十七年度は七十一・九歳、二十八年度は七十二・三歳である。

これらの状況から現在、「会員数の減少」と共に「会員の高齢化」が重要課題となっている。

最近の入会者には仕事について目的意識をもっている人が多く、人気があるのは管理的な仕事、一方、外で行う仕事は敬遠されがちである。

また、女性会員が少ないことも課題であり、「昔から外へ出て働く女性が少ない地域性からか、女性は入会説明会には来るものの入会に至らな

い」と矢澤正勝事務局長は言う。女性会員を増やす取り組みとして行っている調理講習会は、会員以外の市民の受講を可能としている。

入会説明会の工夫

入会説明会は毎月、本所で二回、支所で一回行っている。二十八年度はこのほかに、移動入会説明会を三回実施した。

参加者には説明だけ聞いて帰ってしまう人もいるため、池田崇事務局次長は「説明会の配布資料には最新の就業情報も入れます。会員になるとどんな仕事ができるのか、帰宅してから改めて見てもらえたらと考えました。また、同意が得られた方にはその後、講習会をはじめとした案内を送付します。少しでも興味を抱いた方に、センターの存在を忘れていないでいらうためです」とつながりをもつための工夫を話した。

講習・研修の実施状況

会員の技能向上および派遣就業会

員の育成等を目指して、二十八年度に主催した講習は次のとおり。

※カッコ内は受講者数

●需要の多い作業に就く会員の養成を目的として、専門部会の一つである技能推進部会で企画したもの

初心者向け冬囲い講習会（九人）

冬囲いレベルアップ講習会（六人）

●福祉・家事援助サービス事業に就く会員のレベルアップを図るもの

調理講習会／七月実施（二十五人）

十二月実施（二十七人）

●派遣就業の拡大、会員拡大を目的として高齢者活用・現役世代雇用サポート事業（以下、サポート事業）で実施したもの

刈り払い機作業従事者特別講習会

／四か所で各一回実施（合計七十一人）

一人）

庭木手入れ講習会（十五人）

事業所清掃講習会（十人）

冬囲い講習会（二十人）

講習の効果と成果

毎年多くの受注がある剪定、冬囲

い作業のための講習は、従来限られた予算で一回（半日程度）の実施がやつとであり、結果としてなかなか後継者育成につながらなかった。しかし、二十七年度にサポート事業が開始されたことに伴い、外部の専門機関の協力を得て、共に座学・実習を含む一日六時間×一週間という本格的な講習会を開催し、派遣就業会員の育成に本腰を入れることにした。

二十八年度はサポート事業による冬囲いと剪定の講習を合わせて三十五人が受講し、このうち三十人の会員が新たに就業会員となり、公園管理の派遣就業などで活躍している。

なお、冬囲いの就業会員は現在約二百人、剪定は約百人いる。ここ数年、共に就業会員不足のために実績は下降していたが、二十八年度の冬囲いの実績は上昇した。

「冬囲い講習の講師は地元の造園業者を長年指導された方で、地域の気候、特性を踏まえたオリジナルのテキストにより講習が行われ、受講した会員は就業現場の即戦力になり

刈り払い機作業従事者特別講習会（高齢者活用・現役世代雇用サポート事業）



ました。また、安全講習をカリキュラムに盛り込んでもらい、現在のところ受講者で就業中にけがをした会員はいません（矢澤事務局長）。

修了証を授与

刈り払い機による除草作業もここ数年受注数が伸びていて、五年前に比べて四〇%の増加。このためサポート事業を活用し、外部の専門機関

に委託して講習を実施している。

この講習は特別講習会と呼び、受講者に「修了証」を授与している。二十七年度から二十九年度までに合わせて六十人の会員が修了証の交付を受けた。修了証には、やる気のアップや気持ちを引き締める効果もあるようだ。

今回はセンター主催の講習に注目したが、新潟県SC連合会（以下、県連合会）による市民を対象とした講習会が行われており（上越市では二十八年度、剪定、冬囲い、ディザサービス送迎員）、いずれも会員獲得の成果を得ている。

受講から就業へ

同センターの各講習は、「受講者の評判は大変よく、学んだ内容が活かせることを期待しているので、事務局では受講者の人柄や技量を考慮し、受講後なるべく早くそれぞれに適した職群班長に紹介するようにしています」と池田事務局長次長。

講習の実施には経費がかかる。と



冬囲い講習会 (高齢者活用・現役世代雇用サポート事業)

りわけ一週間の講習ともなると、受講者一人あたり一万円以上となるため、より実りある講習になるように、事務局では受講者のフォローを大切に行っている。

「職群班長には各現場に応じた技術の指導やサポートを行うようにお願いしています。特に、剪定作業は技術を身に付けるまで時間がかかるため、班長やグループリーダーに様子を聞き、元気に続けられるように

サポートします」(池田事務局次長)。

■安全就業と接遇

安全就業のための講習は、新規に冬囲いと剪定作業に就く会員を対象に年二回、春と秋に実施している。内容は、日々の健康管理から、安全な服装について、三脚・脚立類の正しい使用方法など。

また、技能推進部会で行う講習にも、必ず安全対策をカリキュラムに盛り込んでいる。

接遇研修は、これまで県連合会主催の講習カリキュラムにある範囲で行っていたが、二十九年度からは自主財源で新規に接遇研修を行うこととし、年間十回開催して、将来的には全会員の受講を目指すことになっている。

■二十九年度の取り組み

矢澤事務局長は「会員の仕事に対する評判は総じてよいが、常に資質向上を図ることが大事」として、今後講習の実施に力を入れ、会員の

活躍の幅を広げて、地域のニーズに応える人材を一人でも多く育成していきたいと目標を示した。

二十九年度は、サポート事業を引き続き活用して、地域ニーズの高い剪定、冬囲い、刈り払い機作業の講習に取り組んでいく。また、新たな講習として、ドライビングスクールも行う予定である(交通事故の防止と運転マナーの向上が目的)。

高齢者活躍人材育成事業(県連合会主催)では、市との連携により受注拡大が見込める子育て分野や、二十九年度に市と協定を結んだ「空き家管理業務」に対応可能な会員の育成を目的とした講習会、リーダー育成等を目的とした視察研修を計画している。

センターの自主財源で行う技能講習では、接遇研修のほかに、新たに次の講習を計画している。

●パソコン講習(空き家管理業務の報告書作成技能習得が目的)

●調理講習(介護・子育て分野のニーズに対応するため福祉・家事援

助サービス事業の会員拡大を目指して、一般市民の参加も募る)

●リフォーム講習(古着等をリフォームして小物作りをする事業の拡大と女性会員の拡大が目的)

■班長対象研修を実施

「現在、会員数の減少が大きな課題です。『働くことで生きがいを得る』という従来のセンターの魅力が薄らいでいるのかもしれない。現代の高齢者にとって魅力あるシルバール材センターとは何かを考える必要がある」と矢澤事務局長は語る。

また、会員の自主的な事業運営と組織づくりを目的として、二十九年度は地域班長、職群班長を対象にした「班長対象研修」を年二回程度、各百人規模で実施する計画であるという。

新たに地域班、職群班に焦点をあてた取り組みを行うことにより、地に足の着いた地域のセンターとしてさらなる前進を目指している。

(増山)